



内川 雄生 Uchikawa Yuuki

2001年、東京都板橋区生まれ。令和5年8月から寄居町地域おこし協力隊に就任。
ミッションは魅力向上・集客促進。書家三代目、現代書道家として活動している。

■協力隊活動とアート教育による魅力発信

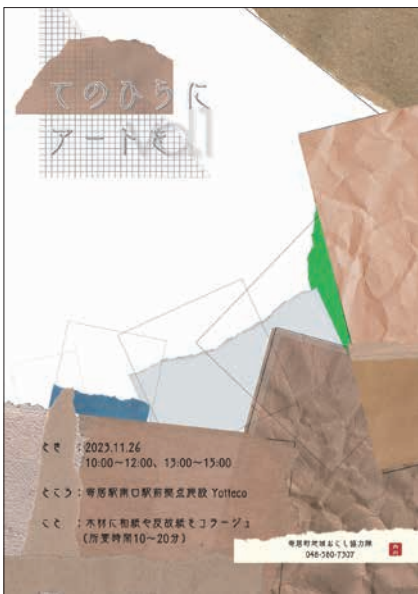
寄居町地域おこし協力隊の内川です。私は協力隊就任時から、地域に根差したアート教育を推してきました。それは着任から一年半が経とうとしている今も変わっていません。むしろこの方向性は町に馴染むだろうとさえ感じています。理由としては、作家が住みつき活動しやすい気候風土であること、そしてゆるっとのんびりした気質であることがあげられると思います。

活動についてのお話に入る前に、生い立ちを少しだけ。私は、東京都板橋区の書道教室を営む家に生まれ育ちました。祖母の代から母が継ぎ、55年余り続く教室です。特筆すべき点として、生徒一人一人が自身の個性と表現に向き合えるように長年母が指導していることです。そして私は、書で独自の作風を編み出し活動の幅を広げています。

話を戻します。非日常を味わえるイベントやお祭りだけでなく、日常的に長く地域に根付くような取り組みをしていくことも必要だろうと思うのです。そのために私が積極的に行ける分野としてアート教育を、と考えました。そしてまず初めにワークショップを開催することにしました。また、手軽さやコンセプトを変えて企画しました。

■これまでに開催したワークショップ ●『てのひらにアートを』

協力隊就任後、初めて実施したワークショップです。和紙と木材を使った最もシンプルなスタイルのものでした。短時間でものづくりに触れられる場になったのではないかと思います。また、ここでのワークショップを機に町内に心強い仲間ができたことも大きな収穫でした。ワークショップは特にシンプルな企画であればあるほど、時と場所を選ばずに開催できることも大きなメリットなのではないかと思っています。出張形式での町の魅力発信も可能なのではないかと思案しています。



「てのひらにアートを」チラシ

●『音を、書く』

過去3回開催し、計70名と多くの方にご参加いただいているワークショップです。こちらは書作品を作るもので、日常で見聞きするオノマトペを画面構成や筆具選びまで含め参加者の方々に考えていただき、オリジナルの作品をお作りいただけるものになっています。特に企画段階で注力したことは、作家が常日頃行う「インプット→思考→アウトプット」という脳内での流れを自然と体験できる仕組みを組み込むことです。脳の使い方がわからないと、作品を作ること自体が難しいですからね。書道に対して少しでも親しみを持つてくれたならうれしいです。



「音を、書く」チラシ

●『アートの行為学』

こちらはまた少し、アプローチの異なるものとなっています。それは複数の技法を一度で体験できるというところにあります。アートの制作手法を分化した際に最小のもの、今回は「塗る」「彫る」「書く」「組む」という表現を体験できる場にしました。各

スタイルの作家を招き直接教わり、参加者それぞれが没頭できる表現に出会えることを目的とし企画しました。

従来のワークショップは主催者が作家に依頼する形のものが多く、一歩踏み込んだような企画や作家間での合同の企画は難しいのではと、一つのグループとして取り組めたことはワークショップ運営側としても貴重な経験になりました。



「アートの行為学」チラシ



■今後の活動について

これまでは寄居駅南口駅前拠点施設「Yotteco」を活用することが多かったワークショップですが、寄居町は居住エリアが分散していることもあり、ほかの地区でも開催していけたらと思います。

ワークショップは、より多くの方にアートに触れる機会を増やすために取り組んでおり、今後も引き続き行っていきたいと思っています。また、参加される方の中にはお稽古場を望まれる方もいらっしゃるので、アートも広く学べる書道教室として開塾を検討中です。

また、その一環として町内外の作家のコミュニティ形成の場にしたいです。特に、地方での人の流動性を促すことは大切で、集客の形が必ずしも観光客である必要はありません。そのため、都市部からの人の流れを生み出せることを期待しています。

寄居町に移住し約一年半、ワークショップによって集客を試みるとともに身近な情景に触れられる魅力発信にも心がけてきました。当たり前に潜在化した魅力は案外、外から来た人にとって最も魅力に感じているものではないかと思っています。また、風布にて昨年11月に行ったライブパフォーマンスでは、町や商工会の協力のもと、町内の事業所とコラボをすることで、より実践的な魅力発信ができました。イベント以外では、まだ取り上げられていないようなモノやコトに焦点を当て、SNSで発信しています。このような協力隊や個人の活動を経て、多くの出会いがありました。町の方と接するたびに、温かく見守っていただけであることを肌で感じております。今後もアートを通して没頭できる、楽しい環境づくりをしていければと思います。



Yotteco での観光案内